磐城春秋

第四十二號

發行所
磐城春秋社
平市田町六番地
電話四八番
編輯兼發行人
高木稲水
印刷所
平活版所
（毎週土曜日發行）
【定價一部一十五錢】

「方面委員」が「民生委員」に
どこが違つて何をするのか

從來「方面委員」の名稱が防貧又は救貧を本旨とするものとの印象を與へてゐたので是を「民生委員」と云ふ名稱に改め民生の安定、社會の福祉を增進する委員たるの觀念を表す事にし、又從來の方面委員は隣保相扶互助共濟の精神に基きその職務を行ふものと規定されてゐたが民生委員會では仁愛の精神に基き國家の行ふ社會行政（特に國家の責任として行ふ社會援護）の地方に於ける末端組織たる性格を明らかにした。委員の職務は市町村内で擔當區域又は擔當事項を分つて行ひ、その内容は（イ）生活狀態の調査、（ロ）要保護者に對する適切な保護誘掖、（ハ）社會施設との密接な連絡及びその機能を扶ける事、その他必要に應じて生活の指導を行ふ事となつてゐる

民生委員に

新生議會の經濟再建と民主々義確立も將又政府に於ける行政施策の百般も民生安定が中心であつて軍政府も是に重点を置いてゐる。全國の人口八千万人に對し保護を要する者は八百万人と見積られ、その救護の國費は三十億圓を算し政府が財政窮迫の折柄敢て厖大な國費を支出する所以も民生安定の重大さを物語るものと云ふべきである。そこで生活保護法は困窮原因が國家にあると云ふ見方から國の責任に於て是等困窮者を保護し自立せしめるやう努めると云ふ意圖であるから吾等同胞は、慈惠的恩惠的觀念を與へないで、自立向上への段階として喜んで活用すべき事を徹底させる樣大いに頭の切替へをせねばならない

故に漏給せず早期迅速且つ適正、併も圓滑に保護し誘掖指導に依つて生活の安定を計り自立向上させて日本再建と世界平和に寄與せしめる事を想へば民生委員は實に責務の重大なる事を感ずると共に洵に光榮ある大業と云ふべきである

生活保護法が兩院を通過し民生委員會が公布されたので愈々民生委員の責任の重大さが痛感される。然しどんなに良い法令が出來ても運營に妙を得なければ精巧な機關車を新米の者に運轉させると同樣で乘客に怪我をさせねば幸ひなると云ふ程度に終る

今度の生活保護法は從來の救護法や母子保護法等の樣に慈惠的消極的でない即ち面倒を見てやる、世話してやる、助けてやると云ふ樣な封建的な考へ方ではいけないのであつて、從つて民生委員は如何に煩瑣な且つ複雜な事務に對しても親切に簡素に果敢にそして迅速に各人の責任に於て之を實行するを常道としなければならない。民生委員は擧げてこの眞摯なしかも管易な方法に進まれん事を希望する。趣旨を体得し實用化する事が出來れば大收獲であつて確かに本法制定の目的完遂の一要素たるを失はぬと信ずる（山野邊達停）

江戸川亂歩の
「心理試驗」より
19日—25日
聚樂館

ゆく人くる人

△箱崎滿壽男氏（共産黨常磐地區責任者）終戰後平にあつて活動してゐたが今回郡山中央委員會書記局に轉じた。後任には郡山から鈴木文雄氏が來平する

△岡田吉光氏（石城地方事務所長）山梨縣に榮轉

スポーツニュース

◇磐城スポーツ聯盟陸上競技部主催、濱通り陸上競技本年度納會は十七日磐女グランドで行はれる

平市有權者總數は一五、四六八名
女は男より一、一七八名も多い

民主化日本を再建する基盤となる平市の選擧人名簿は十三日漸く出來上つたので十五日から廿四日迄の十日間關係者に縱覽させ脫漏を防いで完全なものとするが今回は特に區内會長隣組長に日を定めて檢閲して貰つて名簿の完備を期することになつた。同名簿によれば有權者總數は一万五千四百六十八名で内男七千百四十五名女八千三百二十三名で昨年に比し總數で八百二十二名增加、この中男子は九百四十三名增加してゐるのに女子は百廿一名減少してゐるといふ面白い現象を呈してゐる。男子の增加は復員者引揚者の增加であらうが女子の減少はいかなる原因であらうか。有權者の一番多い區内會は廿四區（城山）の八百九十七名十七區（仲間町）の八百廿五名等であり少い方では十一區（材木町）の七十八名二十二區（大工町）の百七名である。この名簿は來春行はれる市會縣會市長知事等の選擧資格を決定するのであるから十一月卅日で滿二十歳となり十月十日現在で平市居住六ケ月以上になる男女は名簿に登錄されてあるかないかを確めておく必要がある。名簿になければ資格はあつても投票はできない

尙一般參觀希望者は十六日迄二丁目ヤマカ運動具店宛申込むこと

生活と共にある
新生いけばな會

池坊生花教授横山晃嶺氏は此の度新想成つて久しい沈默を破り公會堂日本間で社中の華展を催し左記期間一般に公開し廣く世の批判に訴へる事になつた。「生けられた花こそ此の世で最も美しい花の姿でなければならぬ」と云ふ氏の華道觀によつて成る良心的作品は地方稀に見るところであり斯界の新星として春秋に富む氏に期待する處は大きい。因みに目下氏は磐女華道教師として情操の育成に情熱をかたむけてゐる

◇一般公開日時
十七、八日　自前八時—至后八時
十九日　正午迄

伊藤平市長
辭表提出

平市長伊藤秀吉氏は十四日辭表を提出した。昨年七月十四日就任以來一年四ケ月の在職中終戰前後の混亂期に對處し殊に戰災復興に努力した功績は大きい

人物紹介（32）
文化的で明朗な營業
イワキサロン主人　森川泰一郎氏

平市内の大小百余軒の飲食店は終戰後取締の手の緩んだをさくさに紛れている〳〵の形で金を儲けてゐるといはれてゐる。田町といふ地の利を占めてゐながら閑經營をよそに外食無食堂として明朗堅實な歩みをつづけてゐるイワキサロンの如きはけだし珍しいといへよう。サロンの主人公森川泰一郎さんは新潟縣の生れ。大正十二年に震災に遯げ出されて當時磐中の教員をやつてゐた徒弟の齊藤石藏さんをたよりに磐城平にやつて來たのがそもそも〳〵平との緣のつながりである。祖父の代迄の家業はお醫者さんで現在でも親類には醫者をやつてゐる者が三人あるといふお父さんは役場の吏員だつたといふ。森川さんの持つ道義感はかうした家庭環境から自然に生れて來たものであらう。フランス料理は本場の新橋東洋軒の會計主任として勤務中に習得したもので廿六の年から震災の年迄十年もの年期をいれたものである。平で開業した當時は一品料理のやうなもの以外に本格の西洋料理といふものが普及してゐなかつたのでまづ試食會や講習會などを催して西洋料理の啓蒙から始めた。また回數券發行といふやうな斬新な廣告術も用ひた。かうして大衆を指導しつゝ確實に地歩を開拓して行つた。サロンは主人公の性格を反映して室全体の空氣が落着いてをり、けば〳〵しい女給のサービス等がないので家庭的な落着いた食事ができる。町の文化人といふ部類の人が大抵御定連である。森川さんに文化人の匂があるからである。廣告研究會はサロンの別室が會場でありまた文協の發足當時は矢張サロンの別室でコーヒーを啜つて委員會を開いたものである。マルトモ食堂とサロンは文化運動には緣が深い。森川さんは平古墳墓の地と定めたといふことであるが現在既に料理組合長、副區内會長、協同組合理事と各方面で表面に出て働いてゐるが將來はもつと平市の爲に働いて貰ふ人物の一人であらう

文化だより

平商工經濟會、磐城文協共催講演會　本日午后一時より平第三國民校で、元朝日新聞ニューヨーク支局長伊藤七司氏の「米國の勞働運動と日本の勞働運動」と題する講演が行はれた

△教育民主化の根本は先づ教員の頭の切換からである。生活權擁護運動大いに可なり。屁ぴり腰でおづ〳〵と惡いことでもしてゐるやうな態度でなく大膽に堂々とやるべきである

△男子中等學校生徒の一部に相當廣範圍に喫煙の常習者があり、列車中でもやつてゐるといふが、終戰後は中學生の喫煙が差つかへない事になつたのか。もし取締る必要があるなら取締つたらどうであるか。教育家に自信がなくなつてゐるといふ噂は眞か

△市内某男子中等學校の校長が三日の体育大會の後で五年生の一部から祝賀の意味で胴上げにされ大いに氣をよくしたといふ話だ。またその翌四日はデマが飛んで授業があるのないとごた〳〵したといふ。何が良いか惡いかを判然とさせる事が民主的教育である

△官廳の民主化は所謂人民なるものを信用する事だ。官僚的態度といふのは一般大衆を頭から不完全なものと思つて待遇する態度である。税務官吏が善良なるものに迄脫税を念頭に對する事や警察官吏が犯罪を頭に描いて物を見る態度のごときは正にそれである

△地方公職に對する憂書が公表され一市九町廿五村の市長町村長助役中植田町長渡邊國之助氏大野村長西山惠一氏を除く他は悉く追放されたる事になりその他翼壯關係區内會長等戰時中の指導層は總崩れとなつた。新しく公選される市町村長などは新憲法に依る民主國家の礎石である。公選には愼重を要する。新人必しも良いとは限らぬまた追放された人々の暗躍も警戒さるべきであらう

貝殼追放

パーマネント
大床婦人部
平市田町銀座通り
電話新設五五二番

文房具部
貸本部
書籍の委托販賣も致します
みどり商會
平市番匠町一（廳機關庫裏）
連絡所　磐城春秋社
電話四十八番

文藝

投稿歓迎
可紙上匿名

追悼歌

眠れ鈴木康男君

滝崎廣太郎

——映畫を愛した男であつた。君とは中學時代から隨分映畫に就て語合つたものだつた。土曜日毎に、二人はろくすつぽ書飯も食はずに校門を飛出して街の映畫館に駈込んで行つたものであつた。あの頃は授業終了のラッパの音をどれ程待ち焦れたか知れなかつた。黒板の矩形を一コマのフィルムになぞらへたりしたものであつた。二人にとつて所謂飯より好きなものとは映畫の事であつた。斯くて五ケ年の歳月は高月台上に流れ、二人は映畫への憧れを一層強めつゝ、おの〳〵の道を選擇し、君は仙台へ僕は東京へと磐城を後にした。だが斯く離れても二人を結ぶものは常に映畫であつた。映畫のあるところ、そこには何時も君と僕とがゐた。そして二人は青春の總てを映畫の爲に燃焼させた。休暇になると二人は歸省してよく訪れ合つた。新しい環境の中で究明した映畫の本質と理論に就て論議し合ふのであつた

僕は今でもあり〳〵と思ひ出す。冬の或日、子鍬倉神社の石段の頂上に腰を下して暮れゆく市街を眺めながらシュリアン・ディヴィヴィエを論じ合つた日の事を……。君が自分の吐く言葉に熱狂して遂に僕には一言も喋らせなかつた日の事を……

斯くてまた幾多の歳月は逝つた。二人は互に邂逅しつゝも別個に苦難の道を開拓し、途には共にその希望が入れられ何時しか京都で映畫の仕事に携はるやうになつた。君は太秦にゐた

僕は下加茂に住んだ

君は〝海軍〟と云ふ仕事をした。僕は〝海賊旗吹飛ぶ〟と云ふ仕事をした

二人はそれ〳〵の務に忙がしく、なか〳〵會ふべき機會を持合せなかつたが、それでも時たま君は一人住ひの僕の部屋にやつて來た。そんな時、僕は何時でも配給の仮を炊き、味噌汁を搾へて二人でフウフウ汗しながら食べたものであつた。そして二人は一路に布團に寢た。長身の君は布團から足を出して寢た

〝海軍〟完成後、太秦撮影所は閉鎖となり、君は太秦の全スタッフと共に大船撮影所に轉席した。日頃から東京に移りたいと思つてゐた僕にとつては實に羨しい限りであつた。三條河原町のハマムラの二階で支那食をつゝきあひ乍らさやかな別離の宴を開いた

それから僕は唯一人、底冷えの京都に殘り〝國十郎三代〟にとりかかつた

君は大船で、〝歓呼の街〟にかゝつてゐた

丁度その折運命的なあの赤紙が來た。君はそんな通知を持つて飄然と京都にやつて來た。僕はその間の君のあまりに悲愴な心情に就て今は何も云ふまい。たゞ僕は、君が郷里の人々を愛すれば愛する程再び生きて還れるか何うか判らぬその土地に最後の幾日かを過す爲に戻らうとしなかつた苦しい經緯に就ては、友人として何一つ出來なかつた事を深く悔ゆるばかりなのだ

〝國十郎三代〟のセット待のほんの少しの合間に君は僕を捉へて云つた

——ヒロちやん。俺が兵隊へ行つてる間、俺の分も頑むぞ——

斯くて君は征つた。時に昭和十八年四月

三月程してやつと朝鮮の北にゐる君からの第一便が届いた。それは形式ばつた文句でしかも代筆であつた。僕はすぐ返事を書いた。然しそれは間もなく受取人不在の符箋付で戻つて來た。僕は頻りに不吉な予感がしてならなかつた。君が秘かに傾倒してゐた職殁せる映畫作家山中貞雄の事を思つた

〝外人部隊〟の何氣なくつゝばなされて行くあの雰圍氣が、何故か君にぴつたりくるやうに思はれて仕方がなかつた。季節は又幾度か巡り來ては去つた。君からは杳として消息はなかつた

僕は何時しか京都を去つて磐城に歸つて來てゐた。此の事に就て僕は何の辯解も云ふまい。君の僕に殘した最期の言葉は鮮な印象となつて隨分僕の心を痛めたが、君は屹度僕の悲しき彷徨の日々を深く理解して呉れたであらうやがて戰雲の大詰は來た

兵隊は次から次へと搭乗して故郷の土を力なく踏んだ。だが待てる僕に君は遂に還つて來ようとはしなかつた。それは恐らく、今後も永久に……。君は何故一人ぼつち寂しく死んでしまつたのだ

或日、僕に中學校へ出掛けてみたそして、もと僕達が學んだ教室の席に着いて滯汚れのした黒板を見つめてゐた。黒板は何時しかフィルムに變じてゐた。そこでは丁度元氣一杯な君が姿を見せた。メガホンを握り、キヤメラの傍に監督椅子に腰掛けて……準備はO・Kであつた。君はのんびりした性分にも似合はず、あらゆる部分に注意の行届いた神經質な表情をして、今ワン・カットの撮影にとりかゝるところであつた

——用意　スタート

君の切れた叫びがステージ一杯に響いた。キヤメラがヂーッと動き始めた。プレートがカチンと打たれた。シーンは一復員兵が歸還の途中病殁するところであつた。よく見るとその復員兵も亦君自身が演じてゐるのであつた。だがフィルムは突如切れた。そして再び繋がる事はなかつた

あゝ、烈々たる夏日は今アジアの一敗戰國にも逝かうとしてゐる。人生繚ふるあの秋風が既にたち始めた。かゝる日に君は一体何處にその身を横たへてゐるのだ。僕達が生きる爲に日夜齷齪と苦しんでゐる時に、君は何故遠くの方へ知らんふりをしてゐるのだ

あゝ、心豊なる慢しの友よ

映畫を愛し、映畫の爲に青春の總てを捧げ日本映畫をして世界文化の爲に貢献せんと努力した僕の友達よ

昭和二十年十月十日武昌病院にて身罷りぬ

かゝる公報をつい此頃六間門の兄上のもとで拝見した時、僕の一縷の望みでもあつた還つて來た英靈の傳説は遂に一片の價値なきものとなつた。兄上の宅の縁に今年は長ひよろい南瓜がなつた。僕にはその南瓜が無性に君の如く思はれて仕方がなかつた

友よ、今宵は星の降るやうな晩だ僕は青のびた野菜畠の庭に立つてぢつとそれ等の星を見つめてゐる星が恰も生ける君である如く……そして僕は何時迄も立ちつくして遠い國からの君の言葉にぢつと耳を澄ましてゐる

（一二年九月）

書籍
高價に致します
平市五丁目　片寄書店

週間錄音

◇湯本高女縣移管内定　縣立移管申請中の湯本高女は植田、小名濱兩高女に先んじ縣移管に内定した

◇地方公職追放旋風　八日の「地方公職に對する覺書の適用」の公表に依つて石城地方の町村長助役の該當者は十七名、平市は伊藤市長、佐藤助役の他區内會長廿一名が該當大きな旋風を卷き起してゐる

◇平市臨時市會　八日開催水道使用料その他の使用料手數料等の倍額値上を決定した

◇列車の改廢　十日から常磐線は輸送制限を受け上下各一本の列車が廢止され旅行の足は一層窮屈となつた

◇平市の馬市　彌宜町猪狩理立地で廿年ぶりで催され出場馬數八十六頭最高は二万五千圓で取引され總賣上は三十一万八千五百圓

◇教員組合の鬪爭突入　七日平市八幡郡の各教員組合は平第三校に臨時總會を開いて氣勢をあげ最後迄戰ふ決意を明かにした

◇湯本礦員礦脱退　十一日日礦常磐支部聯合常任委員會の席上常磐炭礦湯本礦は脱退の意志を表示した

◇坑夫組合總同盟參加保留　十日植田町で代議員大會を開いて總同盟參加は保留と決定

◇湯本の殺人事件犯人判明　九月一日比佐昌平氏妹テルさん（五九）を殺した犯人は北海道生れ當時住所不定尾崎行雄（三四）と決定三日全國に指名手配した

株式會社ホシ藥舗
平市三丁目五
電話四二九番

完備せる施設！

磐城洋裁學園生る

市内八幡小路元磐城家政學園の建物の大修理を施し面目を一新して十二月五日から磐城洋裁學園が開かれる同園は志田季雄氏と元東京都地方學務官遠藤義人氏の共同經營で主任講師は東京文化服裝學院出身郡山の安積洋裁學院講師松崎功氏でミシン二十台を設備洋裁の他英語公民家政等をも教授新時代に適した洋裁教育を實施する。内容は本科六ケ月裁斷科四ケ月速成科四ケ月の三科に分れ目下生徒募集中である。入學資格は制限がない

新内務部長は磐中出身

京都府民生部長から本縣内務部長に來任した大和田彌一氏は平市出身磐中第廿一回卒業

福島縣指定自動車整備主要工場
磐城自動車工業株式會社
平市正月町
電話三七〇番
四九〇番

寒い冬が近づいて參りました。同胞愛に依り、海外引揚者や戰災者の方々を助け合ひませう
「少年の町」役場
鈴木傳明
平市公會堂前
電話六〇三番

◎新設
◇小型自動車修理部
ダットサン　ダイハツ
マツダ　くろがね
三浦商會
平警察署前通り
電話八六四番

桑原計理事務所
計理士　桑原徹
稅務代理士
平市場土　電話八一五番

タペシリユーム製劑
タペシリン軟膏
其ノ他有名藥
御注文ニ應ジマス
日本巴布藥工業株式會社
麟産業株式會社平出張所
平市田町二番地（平驛前）
電話（平）五二九番

千代田生命　日産火災海上
三井生命　大正海上火災
日産生命　東京海上火災
釜屋商店
平市五丁目
電話九番九九番

蓄電池　發電機
マグネツト　船舶自動車
電機一般
久野電機工業所
平市二丁目九番地
電話平七二一番
振替東京二二〇四番

内木外科醫院
内木宗八
平市大町二番地
電話六八三番

醫藥用、化學用其他
硝子製品一切の製造
新星硝子工業株式會社
平市仲町
電話七一四番

御手輕な御食事
食堂米久
平市三丁目一番地

星製藥株式會社
福島工場
平市五丁目二八
電話六六八三五三番

レストラン
平會館
平市三丁目
電話六二四番

外科
内科
金成醫院
諸橋本平電
松鐵市八
源一田六
彌一鎌二
町番

福島縣指定事業重點工場
平硝子製作所
平本工製作所
社長　佐藤幸太郎
專務取締役　足助重雄
本社　平市新田町二六
電七一・西五五・七七二
東京事務所　東京都芝區新橋二ノ三八（島森ビル）
電（57）四八三二番
工場　電話　二九二一・二七三
三八九・八三五・三五〇

カメラ高價買入マス
現像・焼付・引伸し
茂木カメラ店
平市三丁目

阿康告知板
冬の病氣（シモヤケ、ヒビ）の豫防は今から
① 肝油球（ビタミンAD）
② 皮膚保護藥
③ 感冒、セキ藥
右衛生資材準備に御利用下さい
阿康藥局
平市田町銀座街
電話四二四番